

2021年9月27日
国立情報学研究所

今後の学術情報流通推進委員会について

1. 概要

SPARC Japan は、2003～2018年度は「国際学術情報流通基盤整備事業」として、2019～2021年度は「学術情報流通推進委員会」として活動し、国内学会誌の電子ジャーナル化、オープンアクセス・オープンサイエンスのアドボカシー活動、国際イニシアティブ（arXiv.org, CLCOKSS, SCOAP³）との連携等に一定の役割を果たしてきた。国立情報学研究所内に2020年度よりオープンサイエンスに関して議論を行う「研究データ基盤運営委員会」を設置した。これに伴い、「学術情報流通推進委員会」としての活動は第1期（2019～2021年度）をもって終了し、オープンサイエンス等に係る案件は「研究データ基盤運営委員会」に機能集約する。

2. 各ミッションの今後

- (ア) 「国内ステークホルダーとの協調」として現在作成しているポジションペーパーについては、2021年度第1回学術情報流通推進委員会の審議事項【詳細は、資料4を参照のこと】である。
- (イ) 「国際協調に係る戦略の検討と提言」は「研究データ基盤運営委員会」に発展的に集約する。※
- (ウ) 「アドボカシー活動の実施（SPARC Japan セミナー）」は学術コンテンツ課の下に企画ワーキンググループを設置し、実施する。
- (エ) 「学術情報流通の動向に係る調査の提言」として行っている論文公表実態調査については、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と調整する（クラリベイトと公開できる情報が増やせるよう、さらなる交渉を行う）。

参 考：研究データ基盤運営委員会概要

委員会は、国立情報学研究所と拠点となる大学や研究機関との連携・協力により、研究データ基盤構築と運用の在り方について議論し、研究データ基盤の運営に、大学や研究機関の意見等を反映することを目的とする。

委員長は国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター長 山地 一禎教授である。

【詳細は、参考資料4（非公開）を参照のこと】

以上

※ 後日 NII 内調整の結果「学術情報流通推進委員会」の2（イ）「国際協調に係る戦略の検討と提言」は NII の「研究データ基盤運営委員会」に集約せず、日本コンソーシアム各代表と学術コンテンツ課の協議のもとで日本コンソーシアムの事務作業を中心に進めていくこととなった。（2022年3月追記）